

解説

インドネシア 夢の途中

かりや みつお
刈谷 光男

機動建設工業(株)
執行役員国際事業部長

1 はじめに

インドネシアとの出会いは、2012年の外務省が中小企業を対象とした海外支援事業「ODA案件を活用した海外展開支援事業」の公募に対し、当社を含む本邦企業がインドネシア国「下水管路建設における推進工法技術の普及事業」を提案し、採用されたのが始まりでした。

この事業は、ジャカルタ市の下水道幹線管きよ整備を対象として、日本の推進技術を適用・普及させるため、管路施工計画のケーススタディおよび現地調査・技術セミナーを通して推進工法の普及に向けた検討を行い、今後の都市インフラ整備における施工能力を向上させるためのプラットフォームを整備し、本邦企業の進出を支援することを目的としていました。

2012年11月26日、第1回目の現地調査で スカルノ・ハッタ国際空港に到着、インドネシア国 ジャカルタへ初めて降り立ちました。最初の印象は思った以上に大きな街(写真-1)、そして激しい交通渋滞でした。翌年1月の2回目の現地調査の時、ジャカルタで数年に一度の大洪水が発生し(写真-2)、それが当社のインドネシアへの関わりを一気に加速させました。

2 当社の海外事業展開

当社の海外進出は意外と古く、以下のようになっています。

1978年 台湾において遠隔圧気式推進工事を施工(写真-3)



写真-1 ジャカルタ市中心部



写真-2 ジャカルタ市内の洪水の後

1980年 マレーシアにおいて圧気式推進工事を施工
(内径1,540mm)

1981年 シンガポールにおいて圧気式推進工事を施
工(内径2,350mm)

これらを契機にマレーシアでは新会社の設立、シンガ
ポールでは支店を開設し事業拡大を図るも、経験不足
から数年で海外事業から撤退することとなりました。

その後、上昇傾向にあった建設投資も1992年をピー
クに減少に転じ、それに連動して推進工事も減少傾向
が続きました。この閉塞感からもう一度海外に目を向け
なければという機運が高まり、2006年5月に現地法人「
台湾機動建設工程股份有限公司」を立ち上げました。こ
の現地法人は昨年8月には海外事業を一元管理するた
めに現地法人を発展的に解散、「日商機動工程股份有
限公司」に移行し、新たに動き出しています(写真-4)。

筆者は2008年6月から現地法人の総経理として赴任
しましたが、台湾での仕事は商習慣の違いから(工事
代金の回収の難しさ、設計変更なし、下請責任優先
等々)設立後数年間は困難な会社経営の連続でした。

しかし、これらの経験が後の海外展開に大いに役立っ
ています。

2012年からは香港での泥水式推進工事の施工。
2018～2019年にかけてはミャンマー連邦共和国の最大
都市ヤンゴン市内において、大土被り、高水圧、河川
横断、長距離と厳しい条件下での推進工事を施工しま
した(本誌2019年7月号に岡嶋・須藤両名で掲載)。
ヤンゴン市内では、その後も水道案件の入札(ODA)、
下水道案件の設計開始(ODA)など東南アジア最後の
フロンティアと期待されていましたが、2021年2月1日
に起きた軍部のクーデターによりすべて頓挫しています
(写真-5)。

3 インドネシアの事業展開のこれまでとこれから

前述した数年に一度の頻度で発生する首都ジャカル
タ大洪水の主な原因とされているチリウン川は、度々氾
濫を繰り返すことから改修済みの河川(BKT)への地
下放水路建設の検討が始まりました。本邦チームは海



写真-3 約45年前の台湾(遠隔圧気式推進工事)

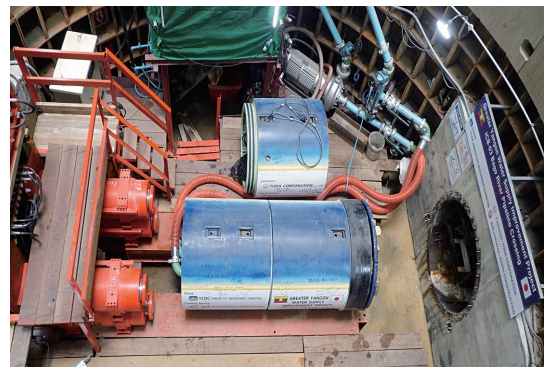


写真-5 発進前(ミャンマー、バゴ川横断推進工事)

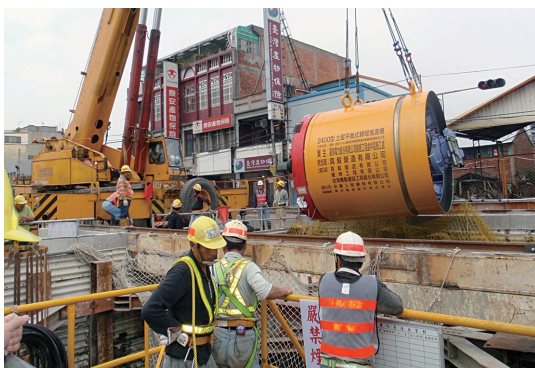


写真-4 現在の台湾の施工状況

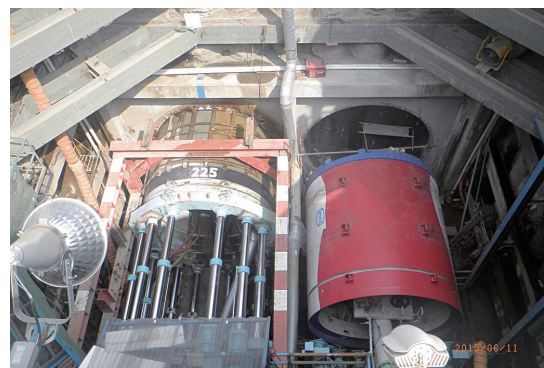


写真-6 アウトレット施工(ジャカルタ、チリウン川放水路プロジェクト)